

日本発達障害学会

第 58 回大会

プログラム

大会テーマ

「障害者を支える共生社会」

—現代社会における知的障害・発達障害者の QOL を考える—

会 期:2023 年 11 月 4 日(土)-5 日(日)

開 催 形 式:対面+オンデマンド

会 場:京都教育大学

実行委員長:小谷 裕実(京都教育大学 教授)

The 58th Congress of the Japanese Association for the Study of

Developmental Disabilities

日本発達障害学会第58回研究大会 タイムテーブル

【2日目】2023年11月5日（日）

講堂	F棟 大講義室2	F棟 F16	F棟 F26	F棟 F13	F棟 F23	C棟 1Fホール	F棟 F12	大学会館内 談話室											
9:00	学会企画 シンポジウム 「知的障害・自閉症者の強度行動 障害への支援の到達点－教育、 福祉、医療連携の新たな一歩－」 9:00～10:45	実行委員会企画 シンポジウム③ 「子どもの発達を支える 心理学的アプローチ」 9:00～10:45	自主シンポジウム J3-a 9:00～10:30	自主シンポジウム J3-b 9:00～10:30	自主シンポジウム J3-c 9:00～10:30	ポスター発表 P4 9:30～10:30	自主シンポジウム 打合せ室 9:00～13:00	天才アート展 9:00～15:00											
9:15			9:30	9:45	10:00				10:15	10:30	10:45								
11:00			教育講演⑤ 「発達障害と思春期」 11:00～12:00	教育講演⑥ 「現代日本におけるインクルーシ ブ教育促進可能性としてのギフ テッド支援－北欧におけるギフ テッド教育の視点から－」 11:00～12:00	自主シンポジウム J4-a 11:00～12:30				自主シンポジウム J4-b 11:00～12:30	自主シンポジウム J4-c 11:00～12:30	ポスター発表 P5 11:00～12:00	自主シンポジウム 打合せ室 9:00～13:00	天才アート展 9:00～15:00						
11:15					11:30				11:45	12:00				12:15	12:30	12:45			
12:30					昼休み				※大学生協の食堂を、研究大会の受付時間中ご利用いただけます。 (大学生協は、キャンパス案内図の福利厚生ゾーン⑩大学会館1階にあります。)					12:30					
13:00					教育講演⑦ 「高等教育における発達障害のあ る学生への修学支援」 13:00～14:00				教育講演⑧ 「司法領域における発達障害」 13:00～14:00	ワークショップ① 「得意を伸ばすために、苦手には ちよつとICTを活用 ～ICT(いつも、ちよつと、たすけ てくれる)～」 13:00～15:00				ワークショップ② 「障害のある子どもや若者への運 動発達支援」 13:00～15:00					
13:15	13:30	13:45				14:00	14:15	14:30											14:45
15:00	15:15	15:30				15:45	16:00	16:15											16:30
17:00	17:15																		

1. 大会日程 2023年(令和5年)11月4日(土)・5日(日)

実行委員長講演、特別講演、学会企画シンポジウム、
実行委員会企画シンポジウム、教育講演(ここまで対面並びにオンデマンド配信)
自主シンポジウム、ポスター発表(対面)

2. プログラム

1) 受付 11月4日(土)9:00~17:00, 11月5日(日)9:00~15:00

*オープニングセレモニー 藤森太鼓……………11月4日(土)10:00~10:30

*天才アート展(大学会館)……………11月4日(土)9:00~17:00
11月5日(日)9:00~15:00

2) 特別講演

村木厚子(津田塾大学客員教授)……………11月4日(土)11:00~12:00
「障害のある人とともに創る共生社会」

3) 実行委員長講演 小谷裕実……………11月4日(土)10:30~11:00
「障害のある子どもたちとともにー医療と教育・福祉 手をとりあってー」

4) 学会企画シンポジウム……………11月5日(日)9:00~10:45
*このシンポジウムは学校心理士資格ポイントAの対象です。

「知的障害・自閉症者の強度行動障害への支援の到達点ー教育、福祉、医療連携の新たな一歩ー」

企画者:神尾陽子(お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所)

村中智彦(上越教育大学 臨床健康教育学系)

司会者:村中智彦

話題提供者:<教育>宮田賢吾(兵庫教育大学 大学院連合学校教育学研究科)

<福祉>池田顕吾(福岡市東区第一障がい者基幹相談支援センター)

<医療>會田千重(国立病院機構肥前精神医療センター)

指定討論者:井上雅彦(鳥取大学 大学院医学系研究科)

神尾陽子

5) 実行委員会企画シンポジウム

①「医療的ケアと家族支援」……………11月4日(土)13:00~14:45

企画者・司会者:小谷裕実(京都教育大学)

話題提供者:松井裕美子(医療法人財団はるたか会)

岡本かずのり(NPO法人こども未来)

寺田直人(花ノ木医療福祉センター)

指定討論者:郷間英世(姫路大学)

②「発達障害者の社会的自立を支援するー生活と就労の視点からー」11月4日(土)13:00~14:45

企画者: 小谷裕実(京都教育大学)

司会者: 佐藤克敏(京都教育大学)

話題提供者: 大石裕一郎(就労支援センターアステップむろまち)

宮地 功 (オムロン)

松田裕次郎(滋賀県発達障害者支援センター)

指定討論者: 梅永雄二(早稲田大学)

③「子どもの発達を支える心理学的アプローチ」……………11月5日(日)9:00~10:45

企画者・指定討論者: 相澤雅文(京都教育大学)

司会者: 佐藤美幸(京都教育大学)

話題提供者: 尾之上高哉(宮崎大学)

伊藤崇達(九州大学)

田爪宏二(京都教育大学)

6) 教育講演・ワークショップ

①川崎聡大(立命館大学)……………11月4日(土)15:00-16:00

教育講演:「ことばの発達と支援のありかたー保育・教育における言語・コミュニケーション・学習面の評価と支援ー」

②井上雅彦(鳥取大学)……………11月4日(土)15:00-16:00

教育講演:「発達障害に対するオンラインによるペアレント・トレーニング その効果と課題を展望する」

③内山登紀夫(福島学院大学)……………11月4日(土)16:15-17:15

教育講演:「大人の自閉スペクトラム症と子どもの自閉スペクトラム症」

④片岡美華(鹿児島大学)……………11月4日(土)16:15-17:15

教育講演:「発達の視点を踏まえたセルフアドボカシーの力の育成 発達障害のある人が自分らしく生きるために」

⑤岡田 俊(国立精神神経センター)……………11月5日(日)11:00-12:00

教育講演:「発達障害と思春期」

- ⑥是永かな子(高知大学)……………11月5日(日)11:00-12:00
 教育講演:「現代日本におけるインクルーシブ教育促進の可能性としてギフテッド支援
 - 北欧におけるギフテッド教育の視点から -」
- ⑦村田 淳(京都大学)……………11月5日(日)13:00-14:00
 教育講演:「高等教育における発達障害のある学生への修学支援」
- ⑧定本ゆきこ(京都少年鑑別所)……………11月5日(日)13:00-14:00
 教育講演:「司法領域における発達障害 日の当たらなかつたところに支援の光が」
- ⑨高松 崇(京都市教育委員会)……………11月5日(日)13:00-15:00
 ワークショップ①:「得意を伸ばすために、苦手にはちょっと ICT を活用
 ~ICT(いつも、ちょっと、たすけてくれる)~」
- ⑩澤江幸則(筑波大学)……………11月5日(日)13:00-15:00
 ワークショップ②:「障害のある子どもや若者への運動発達支援」

※ワークショップ①

「得意を伸ばすために、苦手にはちょっとICTを活用~ICT(いつも、ちょっと、たすけてくれる)~」

にご参加予定のみなさまへ

本ワークショップでは、SiriやSafariなどのネット接続を必要とする演習を予定していますが、大学内にはどなたでも利用可能なフリーWi-Fiがございませんので、各自でiPadもしくはiPhoneを利用したインターネット接続のご準備をお願いします。

iPadを持参される方はiPadOSを16以上にアップデートをしておいてください。iPadをお持ちでない、iPhoneを16以上にアップデートしておいていただければ演習に参加していただくことが可能です。

また、それらの機種をお持ちでない方でも参加は可能ですが、演習内容によってはできない内容もあることをご了解ください。

自主企画シンポジウム

- ・ 1 企画につき 90 分です(質疑・応答・討論を含みます)。
- ・ 進行については企画者と登壇者で打ち合わせをお願いします。
- ・ 発表に使用できる機器は PC プロジェクタのみになります。
 - ※ D-sub15 ピンコネクタ及び HDMI が使用できます。
- ・ パソコン、Wi-Fi環境は各自でご準備いただきますようお願いいたします。
- ・ 資料は原則として発表論文集をもってこれにあてます。これの他に補足資料が必要な場合は、配布用プリントをご持参いただきますようお願いいたします。大会事務局で印刷・コピーは承れません。

J1 11月4日(土) 13:00~14:30

J1-a

障害のある子どもの保護者支援・支援者支援の研究を再考する

企画者:橋本創一(東京学芸大学)

司会者:橋本創一(東京学芸大学)

話題提供者:野元明日香(志学館大学)

堂山 亞希(目白大学)

田中里実(東京都立大学)

石川卓磨(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)

指定討論者:細川かおり(千葉大学)

田口 禎子(駒沢女子短期大学)

J1-b

知的・発達障害の当事者たちが企画・運営・発信するインクルーシブな生涯学習プログラムの開発

企画者・司会者:日戸由刈(相模女子大学)

話題提供者: 古賀千聖(相模女子大学)

篠原優菜(相模女子大学)

武部正明(山梨英和大学/プログラムコーディネーター)

岩本健吾(プログラム参加協力者)

今藤孝拓(プログラム参加協力者)

曾根田杏奈(相模原市発達障害支援センター)

指定討論者: 川口信雄(株式会社はまりハ/元横浜わかば学園)

阿部圭但(文部科学省 障害者学習支援推進室)

J1-c

大学と企業が連携した発達障害学生への就労を見据えた支援の課題と展望

企画者:榎本容子(国立特別支援教育総合研究所)

清野絵(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

司会者:武澤友広(障害者職業総合センター)

話題提供者:清野絵(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

井戸智子(名古屋大学心の発達支援研究実践センター招聘教員)

指定討論者:宮澤史穂(障害者職業総合センター)

知名青子(障害者職業総合センター)

J1-d

発達障害当事者が福祉サービスを断られたケース1例及び断られた後の当事者の行動、思考について

企画者・司会者・発表者:生田友和(フリー)

J2 11月4日(土) 15:00~16:30

J2-a

スウェーデンの国民大学と障害当事者の生涯学習支援の動向

企画者・司会者:高橋智(日本大学)

話題提供者:石井智也(兵庫教育大学)

田部絢子(金沢大学)

内藤千尋(山梨大学)

石川衣紀(長崎大学)

池田敦子(東海学院大学)

能田昂(尚綱学院大学)

J2-b

入院中の強度行動障害者支援・介入の専門プログラムの整備と地域移行に資する研究

企画者:根本昌彦(国立のぞみの園研究部)

司会者:青山瑞穂(国立病院機構肥前医療センター)

話題提供者:中村明美(社会福祉法人はるにれの里)

堀越徳浩(国立秩父学園)

野田孝子(砂川市立病院附属看護専門学校)

江頭弘典(国立肥前医療センター)

指定討論者:根本昌彦(国立のぞみの園研究部)

J2-c

知的障害のある人における恋愛・結婚・出産・子育てに関する人権も擁護される真のインクルーシブ社会を目指して

企画者:延原稚枝(筑波大学大学院人間総合科学学術院)

司会者:名川勝(筑波大学人間系)

話題提供者:延原 稚枝(筑波大学大学院人間総合科学学術院)

武子愛(島根大学人間科学部)

門下祐子(東洋大学福祉社会開発研究センター)

指定討論者:名川勝(筑波大学人間系)

J2-d

これからの発達評価

企画者:清水里美(平安女学院大学)

司会者:郷間英世(姫路大学)

話題提供者:森本優一(近畿大学)

岡田佑一(関西大学)

清水里美(平安女学院大学)

指定討論者:船曳 康子(京都大学)

J3 11月5日(日) 9:00~10:30

J3-a

知的障害の新しい概念について

企画者:霜田浩信(群馬大学)

橋本創一(東京学芸大学)

司会者:霜田 浩信(群馬大学)

話題提供者:是永かな子(高知大学)

尾高邦生(順天堂大学)

齋藤大地(宇都宮大学)

熊谷亮(宮城教育大学)

指定討論:宮本信也(筑波大学名誉教授)

J3-b

障害者の世界を広げるストーリーテリング

企画者・司会者：高野美由紀（兵庫教育大学）

話題提供者：武田博子（相愛大学学生相談室）

有働真理子（兵庫教育大学）

光藤由美子（松山おはなしの会）

指定討論者：鶴野祐介（立命館大学）

森口弘美（天理大学）

J3-c

Society5.0時代の「働く力」における教育からのアプローチ

企画者・司会者：山口明乙香（高松大学発達科学部）

話題提供者：川崎壽洋（NPO 法人ふうしすてむ）

佐藤美貴（NPO 法人札幌チャレンジド）

六車浩（かがわ総合リハビリテーションセンター）

古里王明（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

指定討論者：落合俊郎（広島大学名誉教授）

J4 11月5日（日）11:00~12:30

J4-a

新版K式発達検査 2020 の活用可能性

企画者・司会者：郷間英世（姫路大学）

話題提供者：清水里美（平安女学院大学）

田中駿（京都国際社会福祉センター）

全有耳（奈良教育大学）

指定討論者：神尾陽子（神尾陽子クリニック・お茶の水女子大学）

J4-b

Becker Work Adjustment Profile 2 を活用した実践事例

企画者・司会者：縄岡好晴（明星大学人文学部福祉実践学科）

話題提供者：縄岡好晴（明星大学人文学部福祉実践学科）

上原深音（株式会社チャレンジドジャパン）

乗田開（広島障害者職業センター）

指定討論者：梅永雄二（早稲田大学教育・総合科学学術院）

J4-c

当事者のライフヒストリーと語りから成人期発達障害者支援の未来を考える

企画者・司会者：奥野美里（株式会社コクリエ／凸凹フューチャーセンター）

話題提供者：広野ゆい（NPO 法人 DDAC）

宮崎稔也（成人発達障害者サロンしえあ）

仁科隼人（株式会社はやぶさコンサルティング）

三島あきら（株式会社 Happy）

山部知歩（株式会社しんやさい）

指定討論者：関根千佳（元同志社大学政策学部教授 株式会社ユーディット会長）

安井秀仁（立命館大学大学院人間科学研究科博士後期課程）

ポスター発表

- 指定された時間にポスターを掲示し、各発表者が質問者と自由に質疑・応答・討論を行ってください。
- ポスター掲示ボードは横 90cm×縦 180cm です。ポスターを固定する画鋲等は会場にご用意いたします。
- ポスターの掲示・撤去は各発表者が行ってください。
- 指定された時間に在籍しない、質疑・応答・討論を行わない場合には、発表を取り消しとします。
- 資料は原則として発表論文集をもってこれにあてます。これの他に補足資料が必要な場合は、配布用プリントをご持参いただきますようお願いいたします。大会事務局で印刷・コピーは承れません。

PI 11月4日(土) 13:30~14:30

PI-1

知的・発達障害児へのオンラインによる対人関係支援ゲームプログラム(1)

プログラムの開発・実施の経過に基づいた効果的な支援方法の検討

○小林 和佳1) 山本 響平1) 宮澤 晃尚2) 小泉 愛美3) 4) 小島 道生4)

1) 筑波大学大学院人間総合科学学術院 2) 静岡県立御殿場特別支援学校

3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科 4) 筑波大学人間系

PI-2

強度行動障害の予防 福祉型障害児入所施設における集中療育の効果

○高橋 潔1) 大永 篤2)

1) 公益財団法人鉄道弘済会 2) 公益財団法人鉄道弘済会弘済学園

PI-3

「強度行動障害」者への多様な取り組みとその理論的基礎

ASDの発達論的発生のメカニズム(仮説)と強度行動障害支援者養成研修への新たな提案

○麓 正博1)

1) 福祉コモンズ・元早稲田大学人間科学部

PI-4

ドイツ・ベルリン市の視覚支援学校による巡回指導と授業実践

○安井 友康1) 千賀 愛1)

1) 北海道教育大学 札幌校

PI-5

20世紀初頭の米国ミズーリ州コロンビア市の公立学校における学業不振問題の検討

○千賀 愛1)

1) 北海道教育大学 札幌校

PI-6

韓国の障がい児の保護者が認識するインクルーシブ教育における支援のあり方

○安 世羅1)

1) 創価大学教育学部

PI-7

フィンランドにおけるインクルーシブ教育推進とリーダーシップ

○是永かな子1)

1) 高知大学教職大学院

PI-8

青年期の心理的敏感さのある人(HSP)の加齢変化と支援について

ONGUYEN MINH CHAU1) 橋本 創一2) 小柳 菜穂2) 佐藤 翔子1) 田中 里実4)

三浦 巧也 3) 竹達 健顕2) 堂山 亜希5) 田口 禎子6)

1) 東京学芸大学大学院教育研究科 2) 東京学芸大学 3) 東京農工大学 4) 東京都立大学

5) 目白大学 6) 駒澤短期大学

PI-9

知的・発達障害児へのオンラインによる対人関係支援ゲームプログラム(2)

保護者を対象とした事後アンケートの分析

○山本 響平1) 小林 和佳1) 宮澤 晃尚2) 小泉 愛美3) 4) 小島 道生4)

1) 筑波大学大学院人間総合科学学術院 2) 静岡県立御殿場特別支援学校

3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科 4) 筑波大学人間系

PI-10

ズレた会話は記憶に残らない - ちょうどよい会話を目指して -

○山本 健太1)

1) 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

PI-11

児童の比喩・皮肉理解とそれに関連する要因の検討

○藤村 拓未1) 池田 一成2)

1) 東京学芸大学大学院教育学研究科 2) 東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター

PI-12

高機能自閉スペクトラム症児関係者の立場による思考や心理の差異に関する研究

ー 保護者・教師・専門職のインタビューよりー

○今泉 佳代子1)

1) 西南学院大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程(同)ソーシャルサポートぷらんぷらん

PI-13

発達障害(その可能性)がある女子高校生への心理的支援の課題と展望

ー心理職に求められる資質や力とはー

○三浦 巧也1) 橋本 創一2) 竹達 健顕2) 日下 虎太郎3) 田中 里実4)

1) 東京農工大学 2) 東京学芸大学 3) 明治学院大学 4) 東京都立大学

PI-14

ADHD 特性と思春期のインターネット依存度の関連

○吉田 那沙1) 船曳 康子1)

1) 京都大学大学院 人間・環境学研究科

PI-15

自閉症スペクトラム児の学校生活における矛盾との対峙 一人との関わりを手掛かりにした分析ー

○平田香奈子1)

1) 広島修道大学 人文学部

PI-16

子どもの自閉スペクトラム症的特性と抑うつ症状の関連における媒介要因の検討

ーソーシャルスキルと不適応行動および友人関係に着目してー

○中西 陽1) 小松 愛2)

1) 奈良教育大学 学校教育講座 2) 奈良教育大学 特別支援教育研究センター

PI-17

視機能・手指機能・感覚機能・社会認知機能の相互関連性に関する研究

大学生を対象とした予備的検討

○牛山 道雄1)

1) 京都教育大学 発達障害学科

P2 11月4日(土) 15:00~16:00

P2-1

NiU 新見公立大学発達支援センターなごみにおける取組の意義の検討
学習支援ならびに研修講座に着目して

○岡本 邦広1) 高橋 彩1) 芝崎 美和1)

1) 新見公立大学健康科学部健康保育学科

P2-2

制度の狭間にある発達障害者への支援拡充に向けて

～仙台市における地域活動推進センターの今後の展開について～

○後藤 聡1) 原田 美奈1) 蔦森 武夫1) 鈴木 清博2) 後藤 美枝2) 大石 葉子2)

1) 仙台市北部発達相談支援センター 2) 仙台市南部発達相談支援センター

P2-3

仙台市における発達障害児者支援システムの再考その2

～発達相談支援センターでの相談状況からの分析～

○蔦森武夫1) 安達遥河1) 山本崇史1) 市居 哲1) 今野史則1) 後藤聡1) 原田美奈1) 奈良
千恵子1) 大石葉子2)

1) 仙台市北部発達相談支援センター 2) 仙台市南部発達相談支援センター

P2-4

高齢知的障害者の地域生活支援における現状と課題Ⅲ

～重度障害者等包括支援事業を活用するダウン症者の事例をもとに～

○西郷俊介1)

1) 社会福祉法人 葦の家福祉会

P2-5

高齢期の発達障害者支援の地域体制づくりに関する研究

地域診断ツール「Q-SACCS(キューサクス)」を活用して

○村岡 美幸1) 日詰 正文1) 岡田裕樹2) 内山聡至1)

1) 国立のぞみの園 2) 国立のぞみの園/清水基金

P2-6

パーソナルデータアプリを用いた相談支援システムの実証とその効果

○熊 仁美1) 竹内 弓乃 1) 黒田由加 2) 橋田浩一 3)

1) 特定非営利活動法人 ADDS 2) 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 3) 東京大学

P2-7

児童発達支援センターと視能訓練士の連携による視力検査の練習の取り組みの経過

○杉本明生1) 林泰子2) 田邊真弓3) 杉安真矢3) 宮崎明美3) 末光茂4)

1) 社会福祉法人旭川荘 旭川荘総合研究所 2) 川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 視能療
法学科 3) 社会福祉法人旭川荘 児童発達支援センターみどり学園 4) 社会福祉法人旭川荘

P2-8

人口規模による地域事情の整理と地域特性に応じた効果的なコンサルテーションの検討

大阪府発達障がい者地域支援マネージャー事業の取り組みを通して

○岡 あゆみ1) 佐藤 沙織1) 柳屋 美香1) 新澤 伸子2)

1) 大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか 2) 武庫川女子大学心理・社会福祉学部

P2-9

東日本大震災被災3県(岩手県、宮城県、福島県)の児童発達支援・放課後等デイサービス施設職員
が求める防災研修

○日隈 利香1)

1) 鹿児島大学 医学部保健学科 看護学専攻 地域包括看護学講座

P2-10

教育と福祉との連携に向けた取り組みについて～学校訪問を通じた行動観察と情報共有～

○今野史則1) 蔦森武夫1) 網島園子1) 成見憲介1) 大石葉子2) 大森 彩可3)

1) 仙台市北部発達相談支援センター 2) 仙台市南部発達相談支援センター 3) 仙台市太白区家庭
健康課

P2-11

肢体不自由で車椅子使用の学生が教育実習に臨むにあたって大学が配慮しなければならないことは?
コロナ禍での教育実習におけるアクセシビリティ支援とは?

○田実 潔1) 播磨正一1)

1) 北星学園大学社会福祉学部

P2-12

療育頻度は神経発達症児の就学時の difficulties と関連するか
ベイジアンネットワーク分析を用いた検討

○塩川宏郷1)

1) 実践女子大学生活科学部

P2-13

サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の事業所における業務と人材育成に関する研究
障害福祉サービス事業所を対象としたアンケート調査結果より

○岡田 裕樹1) 村岡 美幸2) 日詰 正文2)

1) 清水基金 2) 国立のぞみの園

P2-14

特別な支援を要する幼児のより良い育ちを支援するための諸関係機関の役割

○山口 有香1) 染谷 雅広1)

1) 桜美林大学 健康福祉学群

P2-15

発達障害の当事者・家族向け情報検索ツール「ココみて(KOKOMITE)」の開発(1)

○与那城 郁子1) 赤塚 望1) 山脇 かおり1) 2)

1) 国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター 2) 国立障害者リハビリテーションセンター病院

P2-16

発達障害の本人・家族向け情報検索ツール「ココみて(KOKOMITE)」の開発(2)

発達障害の診療を行う医療機関情報の収集手続きと結果について

○赤塚 望1) 与那城 郁子1) 山脇 かおり1) 2)

1) 国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター 2) 国立障害者リハビリテーションセンター病院

P2-17

発達障害児における自律神経エクササイズ肺活活用の取り組みの試み

～児発・放デイの療育プログラムの構築と効果の検討～

○天野 寛1) 荒木 裕紀1) 宮城 和正1) 末武 信宏2)

1) 株式会社スターシャル教育研究所 2) さかえクリニック

P3 11月4日(土) 16:15~17:15

P3-1

動画コンテンツを用いた保育者研修の効果検討 - 実際の保育場面のビデオを題材として -

○小池 由香里1) 2) 岡村 章司3)

1) 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 2) 滋賀医科大学小児科学講座

3) 兵庫教育大学大学院特別支援教育専攻

P3-2 ペアレント・プログラム実施の効果 ~子どもの行動に関する困りとストレスの変化を中心に~

○今村 幸子1) 肥後 祥治2)

1) 鹿児島女子短期大学 児童教育学科 2) 鹿児島大学 教育学部

P3-3 自閉症スペクトラム障害児のごっこ遊びスキルの獲得を目的としたオンライン形式のペアレント・トレーニングの効果

○小笠原 忍1) 皆川 泰代2) 山本 淳一3)

1) 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート 2) 慶應義塾大学文学部 3) 慶應義塾大学

P3-4

不登校傾向を呈した発達の気になる思春期を迎える子どもの保護者に対するペアレント・トレーニングの実践

○岩橋 由佳1) 井上 雅彦2)

1) 島根県東部発達障害者支援センターウィッシュ 2) 鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座

P3-5

知的障害者による支援者評価に関する研究(1)~ 支援者評価の実施の概要 ~

○長壽 厚志1) 桑野 良三1) 狩谷 明美1) 川上 雅司1) 池内 豊1) 川本 大輔1) 池田 歩2) 末光 茂1)

1) 旭川荘総合研究所 2) 社会福祉法人 旭川荘

P3-6

知的障害者による支援者評価に関する研究(2)~ 回答の信憑性について ~

○川上 雅司1) 長壽 厚志1) 桑野 良三1) 狩谷 明美1) 池内 豊1) 川本 大輔1) 池田 歩2) 末光 茂1)

1) 旭川荘総合研究所 2) 社会福祉法人 旭川荘

P3-7

特別支援学校高等部の作業学習の内容と ICT 活用の現状

Society5.0 時代の「働く」を見越した課題からの考察

○山口 明乙香1) 前原 和明2)

1) 高松大学 発達科学部 2) 秋田大学 教育文化学部

P3-8

特別支援教育対象の子の保護者へのアンケート調査から

○佐野 昌子1) 橋本 創一2)

1) 東京学芸大学教育学研究科 2) 東京学芸大学

P3-9 知的・発達障害児へのオンラインの授業に対する保護者の意識

○小島 道生1)

1) 筑波大学人間系

P3-10

知的障害のある生徒のメンタルヘルスに関する自記式質問紙の検討 日本語版 WellSEQ の開発

○奥田 千世1) 下山 真衣2)

1) 信州大学 大学院 総合人文社会科学部研究科 2) 信州大学 学術研究院 教育学系

P3-11

知的障害児の日付の理解に関する課題遂行の特徴

—各精神年齢(MA)における取組状況に基づく検討—

○山口 遼1) 橋本 創一2)

1) 国立特別支援教育総合研究所 2) 東京学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター

P3-12

境界域知能の児童への教育支援における教員の困難感に関する検討

通常級、特別支援学級、特別支援学校での比較

○佐藤 翔子1) 橋本 創一2) 小柳 菜穂2) NGUYEN MINH CHAUCHAU1) 山口 遼3)

渡邊貴裕4) 尾高 邦生4)

1) 東京学芸大学大学院教育学研究科 2) 東京学芸大学 3) 国立特別支援教育総合研究所

4) 順天堂大学

P3-13

チーム支援による重度知的障害を伴うASD生徒の「ってきます」「ただいま」の報告行動の形成

○宮田 賢吾1) 村中 智彦2)

1) 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 2) 上越教育大学 臨床・健康教育学系

P3-14

知的障害特別支援学級における偏食指導の実施内容に関する調査研究

－ 障害種や偏食の原因による指導方法の違いに着目して －

○熊谷 亮1) 鈴木 彩加2) 橋本 創一3) 小柳 菜穂3)

1) 宮城教育大学 2) 仙台市立根白石中学校 3) 東京学芸大学

P3-15

知的障害特別支援学校におけるセルフアドボカシースキルの育成に関する調査研究

○尾川 周平1) 小島 道生2)

1) 日本学術振興会 特別研究員 2) 筑波大学 人間系

P3-16

成人期知的障害者の発達評価 新版K式発達検査2020の結果から

○田中 駿1) 山東 愛美1) 足立 絵美1) 立田 瑞穂2) 全 有耳3) 郷間 英世4)

1) 京都国際社会福祉センター 発達研究所 2) 龍谷大学 社会学部

3) 奈良教育大学 教職開発講座 4) 姫路大学 看護学部

P4 11月5日(日) 9:30~10:30

P4-1

発達障害幼児を対象とした発達支援教室における学生ボランティアの学び

－ テキストマイニングによる振り返りの分析をとおして －

○鶴巻 正子1)

1) 福島大学

P4-2

コロナ禍の特別支援学校におけるマスク着用の影響

○小柳 菜穂1) 橋本 創一2) 山口 遼3) 佐藤 翔子4)

1) 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 2) 東京学芸大学

3) 国立特別支援教育総合研究所 4) 東京学芸大学大学院教育学研究科

P4-3

年齢カテゴリごとの自立活動の活動目標の必要性の検討

○大淵 周平1) 牛山 道雄2)

1)大阪府立守口支援学校 2)京都教育大学

P4-4

全国の国立大学附属特別支援学校に在籍する子どものセクシュアリティの学習ニーズ

ー 保護者が捉えたわが子の性の情報源 ー

○高田 千鶴1) 郷間 英世2)

1)山口県立大学看護栄養学部看護学科 2)姫路大学大学院看護学研究科

P4-5

看護学生に必要な就労スキルの検討 一次的社会化を視点に加えて

○吉兼 伸子1)

1)山口県立大学 看護栄養学部看護学科

P4-6

障害のある子どもの自己決定力の促進を目的とした教員研修プログラムの開発の効果検討

ー 教員向けの自己決定を促進するモデル指導に着目して ー

○陳 玉欣1)

1)広島大学 人間社会科学研究科

P4-7

教師からみた発達障害児童の学校適応とその支援に関する調査

ーASIST 学校適応スキルプロフィールによる分析ー

岡本 茉桜1) 橋本 創一2) 小柳 菜穂2) 山口 遼3) 田中 里実4) 佐藤 翔子1)

1)東京学芸大学院教育学研究科 2)東京学芸大学 3)国立特別支援教育総合研究所

4)東京都立大学

P4-8

高等学校における校内支援体制および授業支援に関する調査研究

○竹達 健顕1) 橋本 創一2) 三浦 巧也3) 日下虎太郎4) 尾高邦生5) 渡邊 貴裕5) 山口遼6)

1)東京学芸大学大学院 2)東京学芸大学 3)東京農工大学 4)明治学院大学 5)順天堂大学

6)国立特別支援教育総合研究所

P4-9

通常学級における発達障害児への習熟度別指導の効果や在り方について

○福田 弥咲1) 橋本 創一1)

1) 東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター

P4-10

交流及び共同学習における特別支援学級児童の学習参加を高める個別支援

○佐藤 万春1) 村中 智彦2)

1) 群馬県立高崎特別支援学校 2) 上越教育大学 臨床・健康教育系

P4-11

ASDにおける処理速度の検討 -記憶機能・発達特性の観点から-

○宮本 博行1) 西田 駿輝1) 船曳 康子1)

1) 京都大学 人間・環境学研究所

P4-12

発達障害のある学生の採用に当たり企業が重視する事柄とは①

-「一般雇用」「障害者雇用」別の選択式回答の結果から-

○榎本 容子1) 清野 絵2) 宮澤 史穂3)

1) 国立特別支援教育総合研究所 2) 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

3) 障害者職業総合センター

P4-13

発達障害のある学生の採用に当たり企業が重視する事柄とは②

-「一般雇用」「障害者雇用」別の自由記述回答の結果から-

○清野 絵1) 榎本 容子2) 宮澤 史穂3)

1) 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 2) 国立特別支援教育総合研究所

3) 障害者職業総合センター

P4-14

知的障害者の中長期のキャリア形成が企業活動にもたらす効果

○根本 治代1)

1) 昭和女子大学 人間社会学部

P4-15

知的障害特別支援学校高等部卒業生に対する職場定着に向けたアフターケアの課題
ー進路指導担当教員へのインタビュー調査を通してー

○今枝 史雄1)

1) 大阪教育大学

P4-16

就労移行支援事業所における場面緘黙のある利用者に対する支援の現状と課題

○鈴木 徹1) 前原 和明1)

1) 秋田大学 教育文化学部

P5 11月5日(日) 11:00~12:00

P5-1

小学校英語における児童の困難に関する調査 「読み」「書き」等領域や学年に注目して

○高野 美由紀1)

1) 兵庫教育大学

P5-2

就労移行支援事業所における就労アセスメントの実施状況調査:主たる利用障害種別間の比較分析

○前原 和明1)

1) 秋田大学 教育文化学部

P5-3

山科地区における病院の小児科と大学がコラボした神経発達症の子どもとその親への支援の紹介
ー集団での感覚統合療法とペアレント・トレーニングー

○大久保 千恵1) 森本 誠司2) 原田 瞬2) 篠田 昭3) 西本 忍4) 前田 真治5)

1) 京都橘大学 総合心理学部 2) 京都橘大学 健康科学部作業療法学科 3) 洛和会音羽病院 リハビリテーション部 4) 洛和会音羽病院 看護部 5) 洛和会音羽病院 小児科

P5-4

特別支援学校小学部での自立を見据えた学習の取り組み
～生活の中で生きる力を育てる視点 2年目の取り組み～

○杉浦 朋子1) 皆川 悦子1) 高木 美穂1)

1) 北海道真駒内養護学校

P5-5

肢体不自由児者の表出促進を目指した長期的取組～長期的視点でのコミュニケーション指導～

○皆川 悦子 1)高木 美穂1)

1)北海道真駒内養護学校

P5-6

病弱教育における不登校児童生徒の支援と今後の支援のあり方に関する文献的考察

○李 受眞1)

1)浜松学院大学

P5-7

ダウン症のある人に生じた急激な生活機能変化の調査

○竹之下 慎太郎1) 上地 玲子2) 桑野 良三3) 井上 友和3) 黒住 卓3) 檜原 幸二3)

末光茂3)4)西川 直人 5)林 聡 5) 寺田 整司5) 高木 学5)

1)岡山大学病院 精神科神経科 2)山陽学園大学 総合人間学部 ビジネス心理学科

3)社会福祉法人 旭川荘 4)川崎医療福祉大学 医療福祉学科

5)岡山大学学術研究院 医歯薬学域 精神神経病態学

P5-8

視覚障害教育におけるキャリア発達を目指す長期的な視点に立った支援の在り方

在学中から卒業後までを見通した視覚障害教育の支援の在り方

○刀禰 豊1)

1)岡山東支援学校 チーム響き

P5-9

P1-17へ移動

P5-10

行動連鎖中断法によるダウン症児の仲間遂行を促す行動の形成

—すごろく課題における自然な中断状況の設定—

○木村 大祐1) 村中 智彦2)

1) 宇都宮青葉高等学園 2)上越教育大学・臨床健康教育学系

P5-11

軽度難聴児の学校生活におけるコミュニケーション支援について

○石橋 正悟1) 菅井 裕行2)

1) 宮城教育大学 教職大学院 2) 宮城教育大学 大学院教育学研究科

P5-12

重症心身障害児に対する視覚定位とコミュニケーション支援～生活の中で反応の意味を捉える～

○山口真梨恵1)

1) 福岡市社会福祉事業団 福岡市立あゆみ学園 言語聴覚士

P5-13 アルフレッド・ビネ(Alfred Binet)研究の現在

○石川衣紀1) 高橋智2)

1) 長崎大学教育学部 2) 日本大学文理学部教育学科

P5-14

注意欠如多動症児者の自尊感情の研究動向

○大槻 毬萌1) 尾川 周平2) 小島 道生3)

1) 筑波大学大学院 人間総合科学学術院 2) 日本学術振興会 特別研究員 3) 筑波大学 人間系

P5-15

発達障害児の体験活動の評価に関する事例研究

～ADHD および ASD 児の社会活動の支援評価について～

○井阪 尚司1) 藤村 良男1) 狩谷 明美1)

1) びわこリハビリテーション専門職大学

P5-16

一方向コミュニケーションにおける ASD 者の身体同調特性

○権 眞煥1) 小谷 裕実1)

1) 京都教育大学 教育学部

P5-17

神経発達症における複雑図形課題の構成方略と書字および保護者による書字特徴評価との関連

○加戸 陽子1) 大野 繁2) 中野 広輔3) 眞田 敏4)

1) 関西大学文学部 2) 大野はぐくみクリニック 3) 愛媛大学教育学部 4) 広島県立福山若草園